

## 令和5年度 加賀看護学校 学校評価結果

学校評価は、学内評価委員および学校関係者評価委員による「学校評価」と学生による「授業評価」を実施しています。

### 1. 学校評価

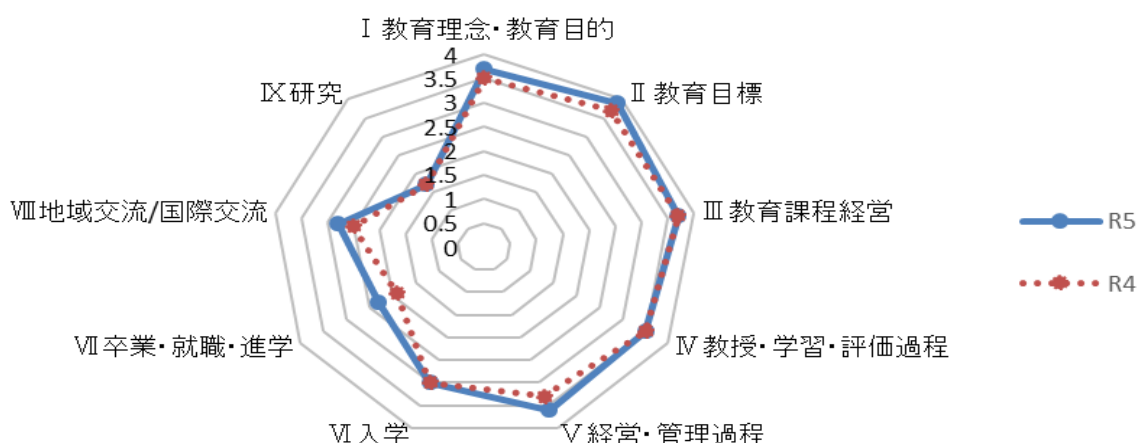
#### 1) 評価内容

I 教育理念・教育目的	5項目
II 教育目標	5項目
III 教育課程経営	15項目
IV 教授・学習・評価過程	12項目
V 経営・管理過程	14項目
VI 入学	2項目
VII 卒業・就職・進学	4項目
VIII 地域交流/国際交流	7項目
IX 研究	3項目
計	67項目

#### 2) 評価の基準

4 当てはまる 3 やや当てはまる 2 やや当てはまらない 1 当てはまらない

#### 3) 評価結果



#### 4) カテゴリーごとの評価の概要

カテゴリー	評価点	学内評価	学校関係者評価
I 教育理念・教育目的	3.7	❖学校の教育理念・目的・目標は、地域社会に貢献できる質の高い看護師養成を保障するものであり、学生便覧、シラバス、実習要項、学校案内に記載している。アドミッションポリシーも明文化し、ホームページに公表した。これらの内容は学生の学習の指針として、また教職員の教育の指針となっている。看護学教育や学生観について明文化したものがないため検討する必要がある。	❖アドミッションポリシーを、ホームページで実際に確認した。その他の項目についても昨年に比べて評価点が下がっているものがないことから、これらの評価で問題ない。
II 教育目標	3.9	❖教育目標は、教育理念・目的と一貫性があり、教育内容を網羅したものとなっている。卒業後も自己研鑽し続ける能力の育成を目標に掲げ、キャリアパスを視野に入れた講義を取り入れている。次年度はこれらをディプロマポリシーに明示していく。	❖ディプロマポリシーとして総合的に卒業時の到達を評価する取り組みがあるのであればよい。

カテゴリー	評価点	学内評価	学校関係者評価
III 教育課程 経営	3.7	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆教育課程は教育理念・目的・目標から考えられており、学科進度・科目・単元の考え方もシラバスに明文化されている。</li> <li>◆令和5年度も引き続き新型コロナウイルス感染症の影響があったものの、講義や臨地実習において学習が不利にならないように調整し、計画通りにカリキュラムを遂行することができた。</li> <li>◆教育課程評価の体系においては、学生による授業評価が定着してきており、全ての講師に実施している。授業評価実施要領を定めて運用している。</li> <li>◆教員の科目分担は偏りなく配分されているが、退職者による欠員があり1人あたりの業務負担が増大している。授業準備に十分な時間がとれていないため、業務改善の工夫が必要である。</li> <li>◆臨地実習については、定期的の実習指導者会議を開催し実習指導体制、学生の安全教育・安全確保について十分に話し合いながら学生指導にあたっている。新カリキュラムに伴い臨地実習施設が増えたが、その都度指導担当者と教員とで密に連携をとり調整しながら進めることができた。また合同実習指導者会議を開催し、各病院の指導者との話し合いを行った。</li> <li>◆ケアの対象者の権利の尊重について明文化されたものがないため、今後整備していく必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆実習施設の学修支援体制については、実習指導者が不在であっても複数の指導者を擁立したり教員と連携することで体制を整えることができています。</li> <li>◆実習体制に不備があると感じた時には、施設側に状況を伝えていただきたい。</li> <li>◆退職者の補充がないうえ産休代替の教員も確保されていない。近年は学生支援にも労力が必要なため、教員の負担が大きいのではないかと感じています。</li> <li>◆教員の負担軽減を図る方策として、学生のメンタル支援を担うカウンセラーを配置できるとよい。</li> </ul>
IV 教授・学習・評価 過程	3.5	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆教育内容は、教育理念・目的・目標と一貫性をもち、科目目標・単元目標、科目間の関連性、評価方法はシラバスに明示している。シラバスは、学生の学習への動機づけとなるよう整備されている。</li> <li>◆授業の展開では、シラバスに沿って学生の学習が進化するよう授業方法を選択している。またルーブリック評価の洗練を図り、より学生にとってわかりやすい評価に取り組んでいる。しかし、具体的な授業方略や評価計画は担当講師に一任しているため、全ての講師が行っているとは言えない。今後より浸透していくよう働きかけていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆授業評価において、結果に対する改善策の提出を求めることができるとよいが、外部講師にはその対応に限界がある。</li> <li>◆授業内容の理解と学習の動機づけを図るため、カリキュラムマップを作成して視覚的に表すと効果的ではないかと感じています。</li> <li>◆AP・CP・DPIは、公表しているだけでなく、学生がどのように理解しているか評価していく必要がある。</li> <li>◆講義開始前にその都度シラバスで本日の単元を確認するなど、活用の工夫を取り入れてはどうか。</li> </ul>
V 経営・管理 過程	3.6	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆学校長及び事務局長が病院との兼務であるが、職員会議等で管理者の考えを確認しながら、連携して学校運営にあたっている。組織体制は学則等に明示されており、職務分掌に沿って各々の役割を果たしている。</li> <li>◆財政基盤は大部分が市の一般財源となっている。必要な教材は計画どおりに整備し適正な予算執行ができています。しかし、退学者の増加と入学志願者の減少に伴う財源への影響および総定員維持に向けた教職員の意識改革が課題である。</li> <li>◆学校施設は、老朽化ならびに能登半島地震による被害がみられるため、令和6年度予算により修繕予定である。限られた敷地と老朽化した設備のため、福利厚生において十分とは言えず、学生に不便をかけている。</li> <li>◆近隣の高校訪問、オープンスクール開催、高校内進路相談会参加、4年ぶりの学校祭の開催、ホームページの刷新、地方紙を通じた学校の話題発信など学校のPRに務めた。今後は情報発信力が高いSNSの導入を検討したい。</li> <li>◆自己点検・自己評価は規定に基づき実施できている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆退学増加と入学減少の傾向は、本学だけでなくとどまらずこの看護学校でも課題となっているようである。</li> <li>◆退学理由は、専門的な学習に限界を感じた、あるいは入学前に思っていたものと違っていた、ということだった。このような事例もオープンキャンパスで紹介してはどうか。そうすることで、入学生も心づもりができる。</li> </ul>
VI 入学	3.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆入学希望者に当校の教育理念や方針が伝わるよう学校案内に記述し、課題となっていたアドミッションポリシーを明確にしホームページに掲載した。</li> <li>◆受験者数の減少傾向に対し入学選抜方法の改革に取り組んだ。社会人入学者が増加したが、一方で一般入試の受験者が過去最少となった。近隣の高校を訪問で得た情報を分析し、次年度のオープンスクールや入学選抜の計画に反映していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆看護協会が企画する高校生の看護体験の希望は多い。看護に興味がある高校生は一定数いるものの、大学志向で専門学校への志望が少ないのだろう。</li> </ul>

カテゴリー	評価点	学内評価	学校関係者評価
VII 卒業・就職・進学	2.3	<ul style="list-style-type: none"> <li>❖ 卒業時の到達度は、看護技術経験状況と看護の統合と実践IVにおけるOSCEで把握している。国家試験合格率は全国平均より高い96%であった。</li> <li>❖ 国家試験合格の卒業生の加賀市内医療機関への就職は42%である。「地域社会に貢献できる人材育成」の教育理念の達成にむけ50%以上を目指したい。</li> <li>❖ 入学から卒業までの学生数の変動、ならびに卒業後の動向の分析等が課題である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>❖ 近年の学生は、専門の知識・技術の習得の前に国語力の強化が必要。教科外時間に補習授業するなど、対策を考えてみてはどうか。</li> </ul>
VIII 地域社会・国際交流	2.8	<ul style="list-style-type: none"> <li>❖ 4年ぶりに学校祭を開催し地域とのつながりの機会となった。また、授業の一環として地域理解のためのフィールドワークや加賀市総合防災訓練参加により、地域の特徴やニーズを把握することにつながっている。</li> <li>❖ 国際的視野を広げるための自己学習環境は整備されていない。しかし、国際的視野を広げるため、令和5年度はJICA経験のある看護師による講演会を行った。令和6年度は、外国人留学生在が学ぶ近隣の専門学校との交流授業を予定している。海外からの留学生の受け入れ体制については整備できていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>❖ 海外からの留学生を積極的に受け入れることは、現在の社会情勢や経済情勢を考えると難しいだろう。</li> </ul>
IX 研究	1.7	<ul style="list-style-type: none"> <li>❖ 研究の素地となる学会参加の予算を計上し学会参加を推奨しているが、コロナ禍にあり参加は十分ではない。</li> <li>❖ 研究協力の依頼に関しては積極的に協力している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>❖ 学生の対応に追われ、教員の研究の時間がとれないのが現状である。</li> <li>❖ 看護は実践に結びつく分野なので、研究業績だけでなく教育業績の評価の比率を上げるような、学校独自の評価体制をとってもよいのではないか。</li> </ul>

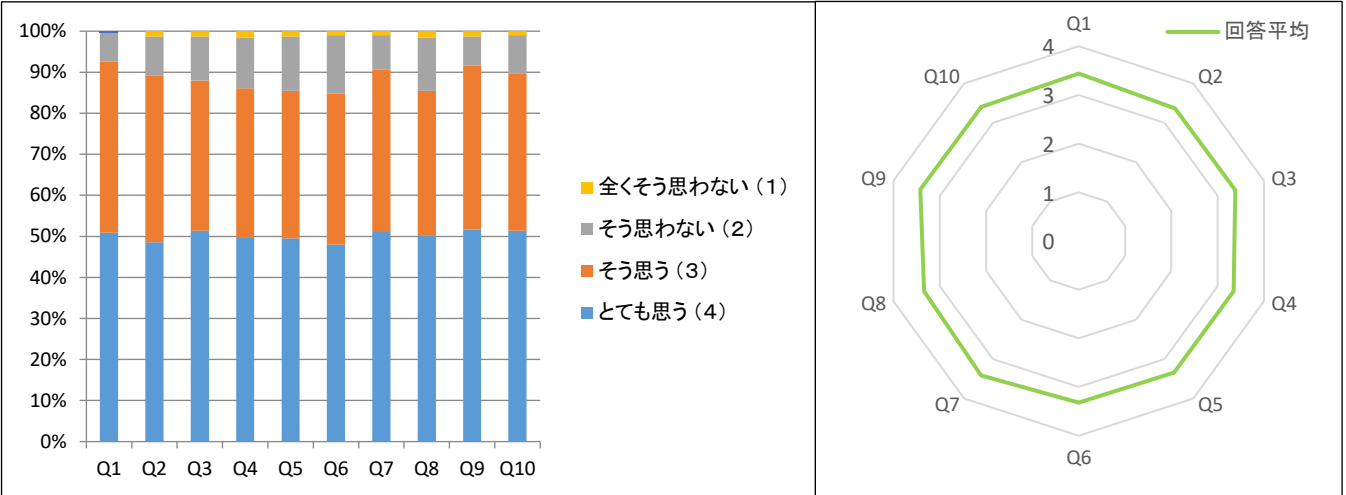
## 2. 授業評価

### 1) 講義

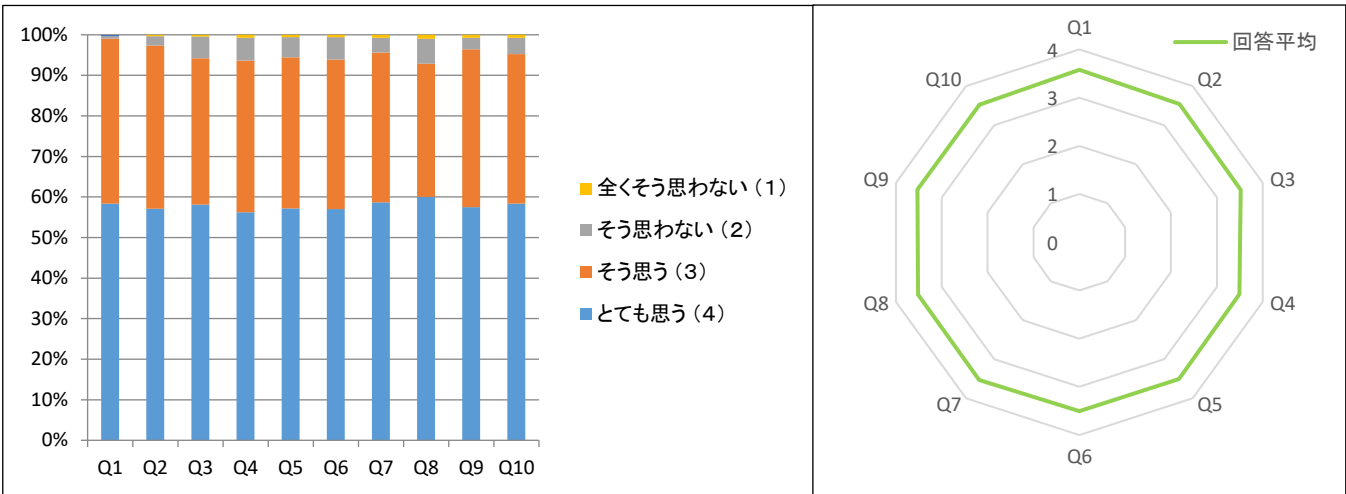
#### 【評価項目】

- |                       |   |
|-----------------------|---|
| Q1 この講義に意欲的に参加した      | Q6 教員は学生の興味を引き出すような工夫をしていた                        |
| Q2 学習目標や講義計画が明確であった   | Q7 学生が質問しやすく答えも丁寧であった                             |
| Q3 時間や内容の配分が良かった      | Q8 教材教具(テキスト、板書、プリント、パワーポイント、動画、模型など)の使い方は効果的であった |
| Q4 教員の説明は具体的で分かりやすかった | Q9 この講義を受けて知識が深まった                                |
| Q5 教員の話し方は聞き取りやすかった   | Q10 この講義は興味・関心が深まる内容だった                           |

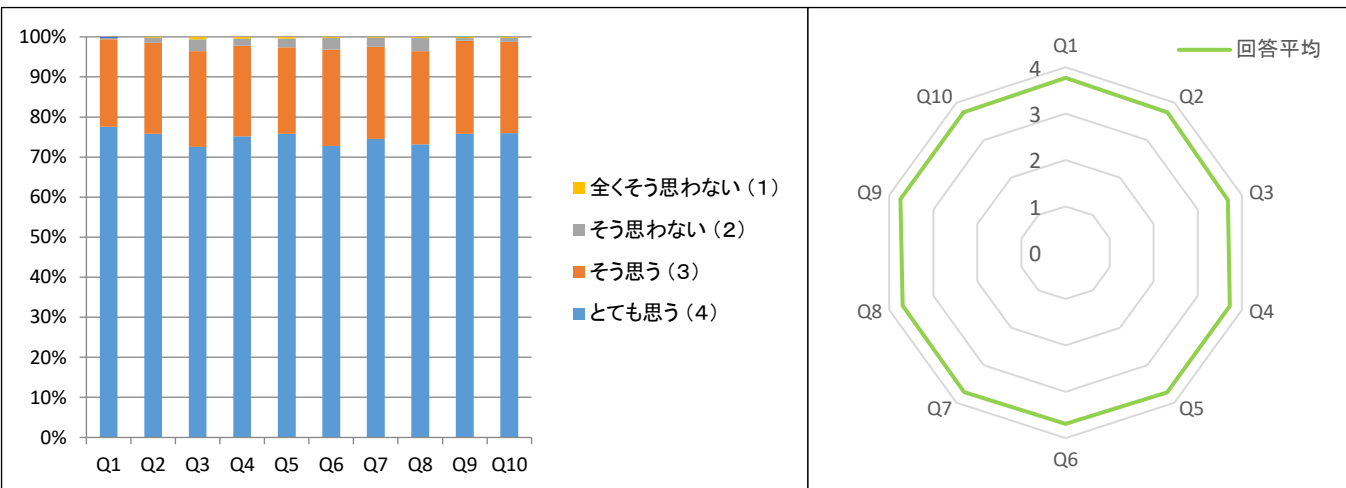
#### 【基礎分野(14科目)】



#### 【専門基礎分野(23科目)】



#### 【専門分野(47科目)】



## 2) 臨地実習(13科目)

### 【評価項目】

- Q1 課題を持ち、目標が達成できるよう努力した
- Q2 グループの一員として協力して取組んだ
- Q3 実習目標を達成するうえで必要な体験ができた
- Q4 事前オリエンテーションの内容は、実習を円滑に行うために役立った
- Q5 病棟・施設オリエンテーションの内容は、実習を円滑に行うために役立った
- Q6 行動計画について、教員から適切な助言・指導が得られた
- Q7 カンファレンス/ミーティングでは、教員から適切な助言・指導が得られた
- Q8 記録指導では、教員から適切な助言・指導が得られた
- Q9 教員は学生が理解しやすい言葉や方法で指導していた
- Q10 教員は学生の気持ちや考えを受け止め尊重していた
- Q11 教員は学生の実習が円滑に進むように、適宜調整していた
- Q12 教員と指導者間で指導の方向性がずれないように連携が取れていた
- Q13 行動計画について、指導者から適切な助言・指導が得られた
- Q14 援助場面では、指導者から適切な助言・指導が得られた
- Q15 カンファレンス/ミーティングでは、指導者から適切な助言・指導が得られた
- Q16 指導者は学生が理解しやすい言葉や方法で指導していた
- Q17 指導者は学生の気持ちや考えを受け止め尊重していた
- Q18 指導者は看護者としてのモデルになっていた
- Q19 指導者は学生の実習が円滑に進むように、適宜調整していた
- Q20 学生のための場所(記録する場所、カンファレンスの場所、私物置き場、休憩室など)は確保されていた
- Q21 実習施設・病棟は学生を受け入れてくれる雰囲気だった
- Q22 全体として充実した実習だった

